

山形県立 鶴岡病院だより

山形県立鶴岡病院 〒 997-0369 鶴岡市高坂字堰下 28 ☎ 0235-22-2690

年頭あいさつ

院長 神田 秀人

明けましてあめでとうございます。本年の3月上旬には、いよいよ山形県立こころの医療センター開院となります。新病院の第一の機能は、精神状態の悪化に応じて24時間いつでも対応する精神科救急病棟にあります。この病棟は、出来るだけ早期に適切に精神障害に対応して入院を長期化させない機能を持たせた病棟であり、精神科としては全国的にもいち早くクリニックパスによる運用を目指します。クリニックパスとは、各職種がどのような時期にどのような治療的関わりを持つのかの時刻表と結果記録のようなもので、この運用によりチーム医療が有効に機能すると期待されます。さらに、児童思春期外来・病棟では精神科としては県内で初めて院内学級を備えており、発達障害をはじめとする児童思春期の問題や、保護者の抱える養育上の問題などに対応します。そして、医療観察棟では全国の約800床のうちの17床を当院で担い、厳密な基準に則った診断と集中的な治療が行われます。また、何より新病院に引っ越されて入院を継続する患者さん達にも、快適な居住環境と新設備でのサービス提供が可能になります。いずれにせよ患者さんは環境変化に弱い方が多いので、全職員で配慮をしていきたいものです。



2014 JSFA 東北北海道フットサル大会に参加して 遠谷 肇

11月23日に仙台で開催された「2014 JSFA 東北北海道フットサル大会」に参加してきました。この大会は日本ソーシャルフットボール協会が主催する、精神障害者フットサルの競技大会です。私たちは今回、若宮病院のチームと合同で、「オーロヴェッタ山形」として仙台に乗り込みました。合計6チームの総当たり戦で、山形の成績は2勝3敗5引き分けとなり、順位は5位でした。但し、負けた試合は全て僅差でした。また、山形チームの選手が最優秀選手賞を獲得するなど、今後への手ごたえを感じることができました。次回こそは優勝を目指したいものです。応援よろしくお願ひ致します。



県立こころの医療センターの整備について

連載第6回

はじめに、建物工事の進捗状況を説明します。

平成25年6月に梅雨の季節とは思われない雲ひとつない快晴のなか安全祈願祭が執り行われ着工した建物工事が、平成26年12月に完了しました。

現在、3月上旬の開院を目指し、院内の医療情報システムを支えるネットワーク工事や建物周辺の駐車場・ミニグランドなどの外構整備工事を行ってあります。

さて、今回は、病院を訪れた方が初めに目にする『中庭』と中学生以下の子供たちの専用病棟『子どもユニット』を紹介します。

正面玄関から建物の中に入ると、天井が高く開放的な玄関ロビーとなります。ロビー西側は、全面ガラス張りで、その先に中庭があります。中庭は、廻りの建物と調和したベージュ系のタイルを張り、中央に“石庭”風に玉石を敷き詰めました。その石庭の中に庄内の自然を象徴する山々をイメージした石を建て、それぞれの石は、鳥海山、出羽三山、そして現在の病院のすぐ脇にそびえる金峰山などを表しています。受診のため、入院患者のお見舞いなどのため、訪れる方々が落ち着きくつろげる雰囲気を醸し出しています。

続いて、子どもユニットの特徴的な部屋を紹介します。デイルーム脇の畳コーナーです。このスペースには、テレビを自宅でくつろぐように寝ころびながら見ることができるよう、床に畳を敷きました。また、壁一面の壁紙にはNHK朝の連続テレビ小説『純と愛』のオープニングイラストで知られる山形市出身の絵本作家 荒井良二先生の絵を使用しています。子どもたちがノビノビ療養できる環境を整備しました。



中庭の工事の様子
周囲のタイル張りは完了
玉石などの敷詰工事を行います。
(平成26年12月中旬に撮影)



子どもユニット 畳コーナー
作業途中の壁に 荒井良二先生の絵を
飾る予定です。

臨床心理科のご紹介

臨床心理科では、患者さんの生きづらさに寄り添い一緒に考えることで、こころのバランスを整え、自分らしく生きるためのサポートを行います。

業務内容としては、大きく二つあります。一つ目は、心理検査等を実施することによって、心理学的な視点から現在の状態や特徴を見立て、どのように改善していくけるかを患者さんと一緒に考えます。二つ目は、臨床心理面接を通して、自分らしく生きるための道を一緒に探していくことです。

利用される方々のお手伝いが少しでもできることを目指し、日々活動しています。

